

## 校長室から (NO. 34)

### 臨時休業に向けて

今週から臨時休業に入りました。子供たちはどうしているのだろうと思いながら、学校では、再開に向けて準備をしているところです。

さて、先週4月10日(金)、休業前の子供たちに、放送で次のように伝えました。少しでも心に留めてくれていたらうれしいと思い、ホームページに載せてみました。

来週からの臨時休業について話をする前に、昨日の出来事について聞いてほしいと思います。  
4年生の男の子の話です。

職員室横の廊下に、印刷したプリントを取りに来てくれました。2種類の印刷物だけが、ロッカーに入っていました。それを、持って教室に帰れば、自分の係の仕事は終了です。何の問題もありません。しかし、この日は、いつも配り物ロッカーに入っている「かご」が、なかったのです。

男の子は、職員室に寄ってきて、*「いつも入っているかごがないので、大丈夫かなと思って・・・」*と伝えてくれました。かごがなければ、この先、プリントがこぼれたりしないかな、次の人が、印刷した物を持っていくときに困ったりしないかなと、思ったそうです。

どうですか。小さな事ですが、私は、その男の子の心の優しさが、目に見えました。自分のことだけ考えているのではなくて、相手の立場に立って考えたり、行動したりできる「心」があるということです。それが、相手を喜ばせるのです。

このように、相手を喜ばせる場は、学校だけではありません。今回は、特に、家で過ごす時間が、格段に長くあります。家の人は、働きながら、皆さんを守るために、いろいろと心配したり、準備をしたりしてくださっています。皆さんだって、できることはありませんか。

まず、お願いしたいのは、今、話をした、相手を喜ばせる行い、つまり、思いやりの心を、家族にも働かせてください。

例えば、言われたことに対して「はい」と、まず言う。それだけでもよいのです。「そうだね」「わかったよ」と、言葉で伝えるのもよいでしょう。

次に、小学生は、中高生や大人から見れば、小さいです。でも、十分、自分からやれることはあると思います。誰かにしてもらうことを、当たり前だと思わないでほしい。

例えば、学校から出された課題をやっておく、家の人に、やったかやらなかったかなんて、心配させてはいけません。まずは、自分のできることを確実にしてね。それだけでも、とても助かります。さらに、お手伝いや、妹や弟がいる場合は、是非、仲良くすることを心がけてほしいです。

最後になります。この先、どうなるかなと、不安な気持ちがしばらく続くと思います。それは、先生達も同じです。

皆さん、トンネルってわかりますよね。トンネルは暗くて、どこにも逃げ道がなくて、でもそこを通らなければ、目的地につくことができません。しかし、トンネルは、いつか必ず終わりががあります。出口があるから、トンネルというのです。

今回の、新型コロナウイルスの感染拡大の問題も、今はトンネルの中。しかし、やがて出口が見えてきて、明るい光が見えてくるはず。その時まで、静かに、待ちましょう。

日本じゅうみんな、思いやりの心を寄せ合っていきましょうね。長い話でしたが、校長先生の話したことを、家の人にも伝えてくれたら、うれしいです。2週間後、4月27日に元気に会いましょうね。

